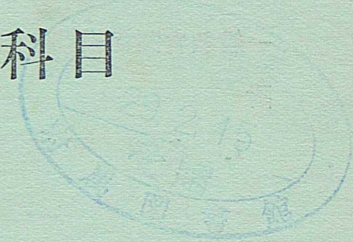


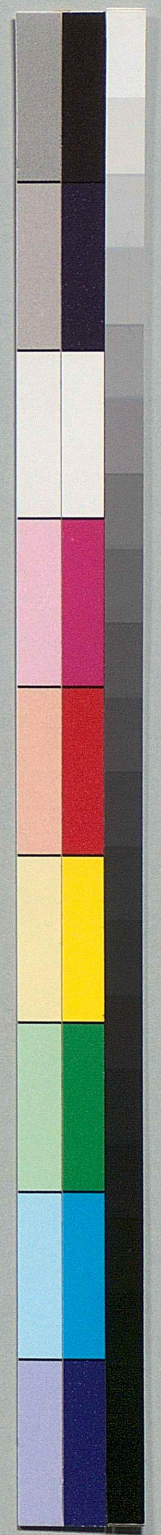
Yanagita Tamemasa

「学生便覧別冊」

# 昭和35年度開講科目



お茶の水女子大学



目 次

昭和35年度開講科目..... 1  
 一般教育関係授業時間割.....61  
 附  
 1. 各科補導委員.....57  
 2 昭和35年度行事予定.....59

昭和35年度開講科目

お茶の水女子大学

- 凡例 1. 科目名からそのまま内容が推定されるものについては、説明を省いたものもある。  
 2. 科目名の順序その他は必ずしも一定の形にそっていない。  
 3. 講義内容欄のローマ数字は、適当と思われる履修年次を表わす。

一般教育科目および外国語		
科目名	担当教官	講義内容
◎一般教育科目 ○人文科学系列 哲学	藤田・石塚	(1) 哲学についての一般的な序説の後、西洋哲学思想史を古代中世(前期)近世(後期)に涉って概説する。

倫理学	勝部	(Ⅱ後) 教育と倫理、政治と倫理、経済と倫理、事実と価値等につき、生活における倫理的要素の反省と考案を試みる。
心理学	松村	現代心理学の動向。一般心理学の対象と領域。講義形式および集団運営法(バス方式)を活用して、基本的な態度が育つようにする。
心理学 (社会心理学)	波多野	(Ⅱ) 一般心理学では精神生活の大要をとりあつかうにせまらざるを得ないので、主として二年生のために、このコースを設けた。前期で、マスキニケーションの社会心理学を説明し、後期で、人格論を講ずる。
宗教学	戸田	1) 宗教学の学的性格 2) 宗教現象の諸相 3) 宗教学の特殊分野 4) 人間の問題と宗教。
文学Ⅰ	堤	(Ⅰ) 日本近世文学を素材に文学とその研究の基本を概説する。
文学Ⅱ	野島	The Hero 文学に現われた英雄(主要人物)について (前期) 古代中世の伝説民話及びロマンスに生存した Hero が近代文学の開始と発展過程のうちに変質していつた意味について考えたい。 (後期) 伝承と文学。
美学・美術史	滝沢	建築・絵画・彫刻の基礎概論及びその歴史について。
音楽理論同鑑賞	三輪	柴田
○社会科学系列		
法学Ⅰ	井上茂	(Ⅰ前) 日本国憲法の思想的背景と内容解釈。他に演習。
法学Ⅱ	渡辺	法とは何か、法と社会とはどんな関係にあるか、法の知識をもつことは社会生活にどんな意味があるかを、民法(家族法・財産法)を中心に講義。
政治学	井上茂	(Ⅰ後) 政治学。

経済学	安藤	資本主義発達史。特にわが国におけるそれを中心として(なかんずく明治維新以降)経済学を概説する。
社会学	大橋	(Ⅰ、Ⅱ) 社会学の基礎概念および理論体系の概略について講義。
歴史学	市古	(Ⅰ前) 中華人民共和国がどうして成立したかという問題を中心にして、近代中国を概観する。
歴史学	赤木	(Ⅰ後) 文化中心の日本史概論。テキストは小峰書店「教養の歴史」の中の「日本史」
文化人類学	大林	(前期) 文化人類学の概論。
地理学	渡辺光	世界主要自然地域、文化経済、人口地域の概観と、世界総合人文地誌。
家政学	谷田外	(Ⅰ後) 家政学の概説と現況。
○自然科学系列		
数学	松田	(Ⅰ) 吉田・赤共著「数学序説」培風館を教科書として使用。
物理学	小野	(Ⅰ) 物理学の発展の歴史を中心にし、基本的な法則の発見から現代物理学までをできるだけやさしくのべる。
化学	岡嶋	(文、家) 一般教育としての化学通論。(2クラスに分けて講義を行う。)
生物学(動物学)	木下	(Ⅰ後) 動物を中心にした生物学。
生物学(植物学)	塚本	(Ⅰ前) 生物一般に行われる物質代謝を中心とする。
地学(天文気象)	佃	(Ⅰ前又はⅠ後) 気象学全般にわたる基礎的な現象の概説並びに天文学のうち特に我々の日常生活に密接な関係のある事項について。

地学(地質鉱物)

赤木健

(1) 太陽系に所属する地球について諸学説、地球中心説より太陽中心説となる変遷の歴史。地球の構造、火山の構造と噴火の形式。地震について。

統計学

魚返

(1前) 初等的な統計的な解析について述べる。

○総合コース

Aコース(主として一年生向)単位数4(金曜3・4時限)  
内容は「歴史的分野」を主とする。  
題目「東と西」

Bコース(主として二年生向)単位数4(月曜3・4時限)  
内容は問題中心にとりあつかう。  
題目「現代における自由と進歩」

今年度の講師

Aコース——藤田・尾鍋・渡辺(光)・和田・中村(一)・鍋島・次田・谷田・柴田・林(太)・内海

Bコース——波多野・藤田・鍋島・谷田・菅井・八杉・平井・蠟山・勝部・周郷・安藤・井上

◎外国語

英語

野島

(文ⅠA) Francis Scott Fitzgerald : Babylon Revisited & Winter Dreams

同

石渡

(文ⅠA) Lucy Moon and Other Stories (H. Walpole) 南雲堂。

同

ルイス

(文ⅠA、B) 未定。

同

伊吹

(文ⅠB) 金星堂発行 P. H. Newby : Ten Miles from Anywhere

同

石渡

(文ⅠB) Very Good, Jeeves ! (P. G. Wodehouse) 小英米文学叢書 研究社

同

木原

(理Ⅰ) Conan Doyle : The Naval Treaty & The Three Students (研究社 ¥80)。

同

西崎

(理Ⅰ) 西川正身編 Wilkie Collins : "A Terribly Strange Bed" (英宝社 ¥140)。

同

堀

(家Ⅰ) Dawson, C. : Understanding Europe

同

滝沢

(家Ⅰ) D. H. Lawrence : The Fox 講読。

同

滝沢

(文ⅡA) Irwin Shaw : Tip on a Dead Jockey 講読。

同

西崎

(文ⅡA) H. S. Commager : "The American Mind" (北星堂 ¥130)。

同

木原

(文ⅡB) Henry James : Daisy Miller (研究社 ¥80)

同

堀

(文ⅡB) Eliot, T. S. : The Modern Mind & Other Essays in Criticism

同

滝沢

(理Ⅱ) 前期 Hugh Walpole : The Silver Thorn 講読。

英語	野島	(理Ⅱ) (後期)
同	西崎	(理Ⅱ) Richie 原島共編 "American Humor" (北星堂 ¥120)
同	伊吹	(家Ⅱ) 成美堂発行 A. Huxley : Richard Greenow and Cynthia
同	野崎	(家Ⅱ) Katherine Anne Porter : Pale Horse, Pale Rider
ドイツ語初級	志田	(文Ⅰ、理Ⅰ) 初級文法4時間2単位・初級読本2時間2単位と併せて履修すること。(テキスト) 菊池: 最新ドイツ文法 (第三書房)。
同	志田・吉田	(全Ⅰ) 初級補助教材併用。(テキスト)未定。
同上級	志田	(文Ⅱ) 上級講読2時間2単位。(テキスト) Johanna Spyri : Pino (第三書房)。
同	同	(理家Ⅱ) 上級講読2時間2単位。(テキスト) G. Britting : Das Waldhorn (南江堂)。
同高級	同	(全Ⅲ、Ⅳ) 高級講読2時間2単位。(テキスト) H. Hesse : Indischer Lebenslauf (郁文堂)。
ドイツ語初級	横溝	(文Ⅰ、家Ⅰ) 高級読本2時間2単位・初級文法と併せて履修すること。(テキスト)未定。
ドイツ語上級	横溝	(文Ⅱ) 上級講読2時間2単位。(テキスト)未定。
同初級	吉田	(理Ⅰ) 初級読本2時間2単位・初級文法と併せて履修すること。(テキスト) 青木: 新独語初歩 (郁文堂)。
同	同	(家Ⅰ) 初級文法4時間2単位・初級読本と併せて履修すること。(テキスト) 羽賀: 新ドイツ文典 (南江堂)。

ドイツ語上級	吉田	(理家Ⅱ) 上級講読2時間2単位。(テキスト) Frisch : Die Bienen und ihr Himmelskompass (大学書林)。
独会話	シュミット	(全Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) 外人講師によるドイツ語会話2時間2単位。(テキスト)不要。
フランス語初級	小泉	(全Ⅰ) フランス語の初歩から主として文法を中心に講義演習を行う。初級文法4時間2単位・初級読本と併せて履修すること。(テキスト)未定。文学入門の作品から徐々に高度の作品の講読演習を行う。
同上級	同	(全Ⅱ) 上級講読2時間2単位。(テキスト)未定。
同	井上	(全Ⅱ) 上級講読2時間2単位。(テキスト) 小林: フランス文撰。(第三書房)。
同高級	同	(全Ⅲ、Ⅳ) 高級講読2時間2単位。(テキスト) 大村・マレスコ: フランス語読本巻三(文学編) (白水社)。
同初級	辻	(全Ⅰ) 初級読本2時間2単位・初級文法と併せて履修すること。(テキスト) 朝倉: 朝倉初等フランス語 (白水社)。
◎一般体育		
保健体育講義	森	(Ⅰ前期前半) 実生活と体育運動とがどんな関連を持つているかを中心として体育の諸問題について述べる。
同	戸倉	(Ⅰ前期後半) 女子の体育の重要性について述べ、欧米における体育事情の知識を与える。
同	渡辺	(Ⅱ) 女子の身体の特徴を説き、体育と職業適性に及ぶ。
体育実技	森・戸倉 林・石山 古江	(Ⅰ、Ⅱ) なお、この時間だけでは実技単位に対して30時間不足。従って体育第二コースで補充するか、第三(四)年次の授業に出席して補充する方法がある。体育第二コースは課外並びに学外の体育運動を履修し指導教官の認定を要する。

専 門 科 目

— 文 教 育 学 部 —

哲 学 科

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
哲学通論	藤 田	(Ⅲ) 哲学全体にわたる主要問題として知識、文化、歴史、実践、人間存在等の基礎知識。
哲学特講	同	(Ⅱ) ヘーゲル哲学解体以後19世紀後半のドイツ哲学。シェリング後期の哲学からキエルケゴール、ショーペンハウアー、ブルクハルト、ニーチェに至る。
哲学演習(1)	同	(Ⅲ) Löwith, Weltgeschichte und Heilsgeschehen
哲学演習(2)	藤 田	(Ⅳ) Jaspers, Ursprung und Ziel der Geschichte
同(3)	同	(Ⅱ後)
西洋倫理想史概説	勝 部	(Ⅰ) 西洋倫理想の展開過程を、古代・中世・近代・現代の4つの時代区分に従って概説する。テキスト使用。
倫理学概論	同	(Ⅱ) 現代倫理学の主要学説を、人倫の理法、時空の理法、価値の理法を中心にして、分類紹介する。

日本倫理想史概説	勝 部	(Ⅱ) 日本における倫理想の展開過程を五つの型にわけて概説する。テキスト使用予定。
論 理 学	石 塚	(Ⅰ) 形式論理学。
近世哲学史	同	(Ⅱ) デカルトからヘーゲル哲学崩壊後まで。
哲学史演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) Kant : Prolegomena
西洋古代中世哲学史	藤 井	(Ⅲ、Ⅳ) ヘレニズムの哲学諸学派に重点を置きながら、ソクラテス以後中世初期までの哲学史を概説する予定。
哲学特講	岩 崎	(Ⅲ、Ⅳ) 現代英米倫理想説の解説と批判。
中国思想史	西	(Ⅱ) 中国の思想活動は政治・社会的な決意・決定のための基礎工作であるという性格が強い。そういうものとしての思想史をなるべく近い時点まで。
倫理学特講	小 倉	(Ⅲ、Ⅳ) 本講義は「現代倫理想の諸問題」の題目のもとに、現代倫理想を特徴づける基本概念の十九世紀における成立とその発展を考察する。
美学特講	谷 田	(Ⅲ、Ⅳ) 生活造形論。生活上の機能と結ぶ造形活動の諸分野(建築および諸工芸)の研究。
美学特講	三 輪	Wilhelm Worringer: Abstraktion und Einfühlung について、美術における抽象の問題を説く。

史 学 科		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
史学概論	中村一良 中村英勝	(Ⅲ) 歴史思想の発達の跡を顧みて歴史学の現況を明らかにするとともに歴史学の研究方法について講述する。前期は中村一良、後期は中村英勝。
日本史概説	中村一	(Ⅰ) 日本史の体系及び構造を明らかにすることに重点をおいて講述する。テキスト：日本史通論(朝倉書店刊)。
日本史特講A	同	(Ⅲ、Ⅳ) 日本史学史序説—時代区分の変遷を通観することにより、日本史学の一縦断面を明らかならしめる。一
日本史学演習A	同	(Ⅲ、Ⅳ) 「読史余論」の輪講を通して新井白石の史風を追究し、併せて近世における歴史研究の課題と成果とを検討する。
日本史特講B	赤木志	(Ⅳ) 主として平安時代の文化・思想・生活を扱う。
日本史演習	同	(Ⅲ) 類聚三代格をテキストとして古代政治社会史の研究。
日本史史料講読	同	(Ⅱ) プリント使用。主として法制史料をよむ。
古文書学	同	(Ⅲ前) 古文書学概論と古代文書講読。
日本史特講(享保改革の経済政策)	大石	(Ⅲ、Ⅳ) 享保改革の位置付けを、享保改革中に実施された経済諸政策の詳細な検討を通しておこなってみたい。
東洋史概説	市古・和田	(Ⅱ) 東洋諸民族社会の発達について講義。前期は和田、後期は市古が担当。

東洋史史料講読	市古・和田	(Ⅱ) 主要な史籍の解題およびその講読。前期は市古、後古は和田が担当。
東洋史特殊講義A	市古	(Ⅲ、Ⅳ) 中国近代史上の諸問題。
東洋史学演習A	同	(Ⅲ、Ⅳ) 清末の農民暴動に関する演習。
東洋史特殊講義B	和田	(Ⅲ、Ⅳ) 東南アジア史。
東洋史学演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 東洋史関係の外国雑誌論文の研究。
西洋史概説	尾鍋	(Ⅰ) 今年度は1917年～1945年までをとりあつかう。テキストは尾鍋輝彦「西洋史概説、下巻」
西洋史史料講読	同	(Ⅱ) テキストは Hughes & Fries, Readings in Western Civilization
西洋史特講A	同	(Ⅲ、Ⅳ) 現代の歴史的背景。テキストは尾鍋「現代史の多系性」
西洋史学演習A	同	(Ⅲ、Ⅳ) 主として外国雑誌論文研究および卒業論文製作指導。
西洋史演習B	同	(Ⅲ、Ⅳ後) 内容未定。
西洋史史料講読	同	(Ⅲ、Ⅳ後) 内容未定。
世界近代史	西海	(Ⅲ) フランス現代史。

地 理 学 科		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
地理学概論	渡辺光	(IV) 地理学発達史的に見た地理学方法論主として外国学者のオリジナルの文章に準拠す。
経済地理学	同	(III) 農・鉱・工業に亘る生産地域の地理的考察を中心とす。
世界地誌(概説)	同	(II 及び他学科一般) 世界の主要文化地域の地誌的概観(特に自然地理的の基盤を必要とせず。但し高校人文地理若くは本学一般教養地理学程度の前提を希望す。)
地誌学特講	同	(専攻科) 地誌学外国文献講読指導。
地理学演習III	同	(III、IV) 外国文献紹介演習と卒論の方針、成果の発表を中心とする。
気 候 I	松 井	(I) 気候学の簡単な基礎知識。
日本地誌 I	同	(III) 日本の自然地理。
日本地誌 I	同	(III前) 日本の農業地理。
気 候 学 II	同	(III前) 世界の気候及び植生。
地理学特講	同	(III前) 那須扇状地地誌。
自然地理学実験	松井・浅海式	(III) 地形、土壌、気候などの野外調査と室内実験、空中写真の判読、分布図の作業など。

地 形 学	浅 海	(II) 地形の成因と発達史的解釈。地理学の基礎として、人間の居住と生産活動の場である地表面を理解させる。
土 壌 学	同	(III) 農業生産に最も関係の深い土地について、その生成論的解釈と分類体系、及び分布を論ずる。
地図学演習	同	(I) 簡易測量、地形図作業、読図、及び地図投影法の演習。
地理学演習(独書)	同	(III) A. Hettner : Grundzüge der Länderkunde I. その他より。
地 質 学	赤木健	(I) 地球を構成する岩石に就いて(火成岩、堆積岩及変成岩)地質作用に就いて、地史の概要等。
岩石鉱物学	同	(II) 鉱物の鑑定及実験、結晶の話、岩石の鑑定に就いて。
層 位 学	同	(II) 主として地層生成に関するもの。
集落地理学 I	式	(III) 集落の地理学的考察に関する基礎的知識。
地理学演習	同	(II) 地理用語の説明にはじまり、地理書講読、論文読解に及ぶ。(英書講読)。
地理学特講	同	(III) 卒業論文作成の基礎となる地形分類に関する知識と最近の成果の紹介。
地理学特講	保 柳	(III、IV後) 中国辺境地域の地誌。
地理学特講	幸 田	(III) 経済地域—工業地域の編成を、土地利用の見地から原理的に吟味した後、在来工業地域の分布・構造・作用を実態において解明したい。
歴史地理学	別 枝	(III) (1)歴史地理学の本質 (2)居住と開発史、交通史の歴史地理学的考察—これらにつき日本、アジア、ヨーロッパなどを対象地域として講述する。



地理学特講	木内	(Ⅲ、Ⅳ前) (1)都市の発達、地域構造等一般都市地理学。(2)日本及び外国都市の地誌。(3)現代の都市問題。
文 学 科	国文学・国語学専攻	
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
日本文学史 (上古中古)	次田	(Ⅰ) 前期は上古文学史、後期は中古文学史を講義する。
国文学講義講読 (上古)	同	(Ⅱ) 万葉集の巻1～巻9について講義ならびに講読。
国文学演習 (上古)	同	(Ⅲ) 古事記の歌謡についての演習。テキストは「記録歌謡集」
国文学特殊講義 (上古)	同	(Ⅳ) 古事記の神話および伝説についての考察。(前年度よりの連続講義)
国文学講義講読 (近古・近世)	井本	(Ⅰ) 去来抄をテキストにした講義講読。
国文学演習 (近古・近世)	同	(Ⅱ) 古典の読解力をつけ解釈の仕方を学ぶための基礎的演習。
日本文学史 (近古)	同	(Ⅲ) 鎌倉時代・室町時代の日本文芸思潮の展開の跡を裏付ける。
国文学特殊講義	同	(専攻科) 日本詩歌史論。

中古文学講読	関根	(Ⅰ) 平安女流日記。
中古文学演習	同	(Ⅱ) 源氏物語柏木巻。
中古文学演習	同	(Ⅲ) 平安時代の和歌(後撰集など)
中古文学特殊講義	同	(Ⅳ) 平安後期の物語について。
日本文学史 (近世)	堤	(Ⅳ) 近世日本文学の史的展開について考察する。
国文学演習 (近世)	同	(Ⅲ) 西鶴独吟自註韻
国文学特殊講義 (近世)	同	(Ⅳ) 浮世草子論
近世日本文学史	高田	(Ⅲ) 近代日本文学の諸問題 前期 明治文学について。 後期 大正文学について。
国文学演習	成瀬	(Ⅳ) 明治における浪漫主義文学等の問題を中心に。
国語学概論	江湖山	(Ⅰ)
国語学史概説	同	(Ⅱ)
国語学演習 (その1)	同	(Ⅲ) テキスト—新古今集
国語学特殊講義 (その1)	同	(Ⅳ) 上代特殊仮名づかい(継続講義)

国語法概説	市川	(Ⅲ) 日本文法(口語・文語)の概説。
国語学史概説	同	(Ⅲ) 国語研究史の概説。
国語学特殊講義 (その二)	同	(Ⅳ) 文章の構造を、作品に即して考察する。
国語学演習 (そのⅡ)	同	(Ⅱ) 徒然草。
国文学特講	阪本	(Ⅲ) 日本近代文学の中に発生した近代詩の様相とその変遷を考察する。 但し本年は明治三十年以降の詩人を考究する。

文 学 科 中国文学専攻

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
中国文学講読(旧)	網	(Ⅰ) 唐詩選を用いて、杜甫(昨年度の残り)および李白の詩を読む。
中国文学史	同	(Ⅰ、Ⅱ) 昨年度の「唐」文学につづいて、本年度は、その残り、及び宋以後を講述する。
中国文学講読(旧)	同	(Ⅱ) 漢魏六朝の詩の傾向を知るために、文選(江淹の雜体詩)を使用する。
中国文学特講(旧)	同	(Ⅲ) 文選を用いて、南朝の大詩人なる謝靈運および沈約の詩を読む。
中国文学演習(旧)	同	(Ⅳ) 朱子の詩、経集伝および老子(王弼注があれば最もよい)を使用する。

中国語学概説	頼	(Ⅰ) 「新しい中国語教本・改訂増補基礎篇」による。
中国語学講読	同	(Ⅱ) 「阿Q正伝」使用
中国文学特講	同	(Ⅱ) 「中国語比較研究」使用。
中国語学講読	同	(Ⅲ) 「四部教科書」第1編。
中国語学演習	同	(Ⅳ) 「四部教科書」第2編。
中国文学講読(新)	中山	(Ⅰ) 現代白話文をテキストとして、その読解につとめる。
中国語学講読	同	(Ⅰ) 中国語の入門、発音、会話、語法を中心とする。
中国文学講読(新)	同	(Ⅱ) 清朝章回小説の味読。
中国文学特講(新)	同	(Ⅲ) 明曲の研究。
中国哲学史	小林	(Ⅲ) 中国哲学史上特異な地位をもつとされる老・荘について、テキストに即して組織的に解明しようと試みる。
中国文学特講	黎波	(Ⅲ) 文学講読。
中国文学演習	同	(Ⅳ) 文学講読。

文 学 科 英文学・英語学専攻		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
英文学特殊研究	鍋 島	(専攻科) I. A. Richards の批評と方法。 テキスト : I. A. Richards : Science and Poetry (橋忠衛編註) 英宝社発行 (¥ 130)
米 文 学 史	同	(Ⅲ、Ⅳ) 20世紀のアメリカ文学概説、および Hemingway, Faulkner, Steinbeck の小説研究。参考書 : 鍋島能弘著「アメリカ文学史」 弘文堂発行 (¥ 250)
英文学演習	同	(Ⅲ) ホイットマンの詩の批評と研究。テキスト : Whitman's Poems(研究社小英文叢書, 120円) 参考書 : 鍋島能弘著「ホイットマンの研究」 篠崎書林発行 (¥ 450)
英文学演習	同	(Ⅰ) ヘンリー・ジェームズの小説研究。テキスト : Daisy Miller (研究社小英文叢書, 80円) An International Episode (同, 100円)
英文学特殊研究	滝 沢	(専攻科) 英国古典劇研究
英文学演習	同	(Ⅲ) Thomas Hardy : The Trumpet-Major 研究。
英語学概論	木 原	(Ⅲ) Otto Jespersen : Growth and Structure of the English Language (Anchor Books ¥ 380、他の版でも可)
英語学特殊講義	同	(Ⅲ、Ⅳ) Vallins: Good English (Pan Books ¥ 150) により英文法の特殊問題を解説。

英文法演習	木 原	(Ⅰ) 英文法全般にわたる講義と演習。岩崎・西川他編 : English Grammar and Composition (3volumes) を所持すること。
英文学特究	伊 吹	(専攻科) Robert Browning : Ring and the Book の研究。
英 文 学 史	同	(Ⅲ) 十九世紀以降。斎藤勇著「英国詩文選」 Ifor Evans : A Short History of English Literature を参考書として使用。
英 作 文	同	(Ⅰ) 金星堂発行 Virginia Woolf: A Room of One's Own を用意の事。
英 文 学 史	西 崎	(Ⅱ) アングロ・サクソン時代から十八世紀まで。斎藤勇編「英国詩文選」(研究社 ¥500円) 及び中西・森共編「英米文学年表」(山口書店 ¥130円)
英文演習(Ⅰ)	同	(Ⅰ) 十九世紀英詩研究。斎藤勇編 : テニスン "In Memoriam" (研究社英文叢書) を使用。
英文学特講 (20世紀英文学) (の諸問題 Ⅱ)	野 島	(Ⅲ、Ⅳ) 昨年 V. Woolf と T. S. Eliot を論講したので、今年は D. H. Lawrence と I. Joyce を論じて、二十世紀英文学が提起した諸問題を探り解明したいと思う。
英文学演習	同	(Ⅱ) Shakespeare : A Midsummer-Night's Dream
英文学演習	石 渡	(Ⅱ) David Copperfield (Vol. 1) 英米文学叢書研究社。
英作文演習	木 村	(Ⅱ) 日本文の小品随筆などの翻訳。原文は学生と合議の上決定。
英語音声学	宮 田	(Ⅰ) 英語の発音の理論と実際の訓練。個々の音韻。アクセント、イントネーションなど。日本語の発音とも比較する。テープレコーダーも利用。
英文学特講	土 方	(Ⅲ、Ⅳ) シェイクスピアの悲劇(リア王を中心として) 使用教科書 King Lear (研究社英文学叢書)

英 会 話	ルイス	(Ⅰ) 未定
同	同	(Ⅱ) 未定
英 作 文 演 習	同	(Ⅲ) 未定
英 文 学 特 講	同	(Ⅲ、Ⅳ) 未定
教育学科 教育学専攻		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
教育心理学演習	波多野	(Ⅲ、Ⅳ) F. J. McDonald Education Psychology 1959
発達心理学特講	同	(Ⅲ、Ⅳ) 学習と発達、発達と経験、発達における環境的要因等。
視聴覚教育特講	同	(Ⅲ、Ⅳ) 主としてテレビの教育効果につき研究する。テレビと社会教育については、ユネスコの実験調査をテキストとし、テレビと学校教育について同じような調査を実施する。
教育心理学	阪本	(Ⅱ) 教育学専攻者のための教育心理学で、発達心理、学習心理、ガイダンス、教育評価の概要をのべる。
視聴覚教育の心理学	同	(Ⅲ、Ⅳ) 学習方法としての視聴覚教育の理論を究明し、映画、放送、スライド等各メディアの特性について概括し、デモンストレーションを行う。
児童文化	同	(Ⅲ) 児童文化の本質、児童文学の変遷史及び各種の児童文化財について考察する。(対象、教育学科及び児童学科)

教育科学概論	周 郷	(Ⅰ) 教育研究入門—教育研究の歴史・概観および現代の課題。社会進歩と教育。文化の交流と教育、心理学と教育、政治と教育を含み、日本の教育研究の方向をとらえる。
教育哲学	同	(Ⅱ) 現代の教育哲学—東と西における「人生論」(Philosophy of life)の諸相とそれに対応する教育哲学の諸類型の発展。日本の教育哲学の吟味。
教育哲学演習	同	(Ⅲ) W. R. Niblett "Education and Modern Mind" (1958) 講読。
教育哲学特講	同	(Ⅳ) 芸術教育—芸術教育の思想、その諸領域。教育の諸活動のなかでの芸術および芸術教育の役割。
児童心理学	小 口	(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) 「自我」の発達を中心とする。
学習心理学	同	(Ⅲ、Ⅳ) 1. 学習理論の基礎 2. 学習理論の展開 3. 学習理論の応用。
教育測定学概論	同	(Ⅲ、Ⅳ) 教育統計法の基礎を中心とする。
教育測定学演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 教育統計法の応用。
学習心理学演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) Allport, G. W.: Becoming, 1955 の講読。
発達心理学Ⅱ 青年心理	内 田	(Ⅲ前) 青年期の心理学的特質。
中等教育特講	同	(Ⅲ後) 思春期における指導上の諸問題。
実験実習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 実験実習を通して青年期の心理的徴候を検討する。
西洋教育史	柴 田	(Ⅱ、Ⅲ) 十九世紀の西洋教育史。(ロシアを中心として)
西洋教育史特講	同	(Ⅲ後) ウィンズキー研究。テキストはウィンズキー著「教育の人間学」

日本教育史	土屋	(Ⅰ前) わが国における近代学校教育の発展と問題を説述することを主とするが、近世並びに近世前の教育目的・形態等の変遷についても触れておきたい。
日本教育史特講	同	(Ⅲ後) わが国における近代技術の教育がどのように発展して来たか。またその途上において、どのような問題をはらんで来たかについて考察する。
教育行政要論	関野	(Ⅲ) 戦後の教育改革を中心とする教育行政の推移と課題についての論究
近代学校制度論	同	(Ⅱ、Ⅲ) 近代日本の学校制度(とくに女子の高等教育の展開)を社会的行政的見地から考察する。併せて女子の高等教育卒業者の進路に関する調査研究。(本年度は休講)
教育方法	吉田	(Ⅲ) 教育方法の基本原理解について、心理学的、社会学的、歴史的な視点から分析し、学習指導、生活指導の形態を概観する。
教育方法演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) Mursell, James L: Principles of Democratic Education 1955
教育方法特講	同	(Ⅲ) 近代日本における教育方法の歴史。大正から昭和の初頭を中心として。
社会教育	同	(Ⅰ、Ⅲ) 社会教育の目的、内容、方法、施設などについての概観ならびに問題点の所在を明らかにする。
マス・コミュニケーション(視聴覚教育)	坂元	(Ⅲ、Ⅳ) マス・コミュニケーションの本質、そのメディアの諸相を明らかにし、視聴覚的な教育方法への利用について論及する。
教育課程概論	宮田	(Ⅱ) ルネッサンス以後のカリキュラムの歴史。カリキュラム論争。
教育課程演習	同	(Ⅲ) Otto, H. J. ; Social Education

教育課程特講	宮田	(Ⅴ) カリキュラムの近代化過程。
生活指導	同	(Ⅲ) 生活指導と道徳教育。
日本教育史演習	同	(Ⅱ、Ⅳ) わが国の教育思想におよぼす諸外国の影響の歴史。
教育実験実習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 学校集団の構造の研究。
教育社会学概論	河野	(Ⅱ) 教育社会学研究の意義、発展、領域、方法について概説し、若干の基本的諸問題を考察する。
教育社会学特講	同	(Ⅲ、Ⅳ) 教職論を中心にして、学校社会学の諸問題を論究する。教職の社会的地位、教師の役割、教職活動の社会的構造、教師生活の諸問題などがとりあげられる。
教育社会学演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) Ottaway: Education and Society の講読と併せて、諸種の参考書(主に原書)を分担して、研究し紹介する。
教育調査	同	(Ⅲ、Ⅳ) 教育調査の意義、領域について概観し、いくつかの調査事例をもとにして教育調査の理論と実際を理解する。
教育史演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) Curtis: A Short History of Educational Ideas を中心にして、近代教育思想史の展開をあとづける。
社会教育(婦人問題)	島津	(Ⅱ、Ⅲ) 婦人労働の問題を中心に、問題の発生、発展と戦後各国における教育とからんだ発展の諸相、日本への反省。
家庭教育論	古川	(Ⅱ) 家庭の社会的、経済的、教育的意味と、特に子どもの立場から、父、母、兄弟姉妹、その他の人が子どもの成長にとって何であるかを考える。

教育学科 体育学専攻		
科目名	担当教官	講義内容
体育学原論	森	(Ⅲ、Ⅳ) 体育の意義と諸原理の考察。体育と諸科学との関連。
日本体育史	同	(Ⅱ) 明治以後におけるわが国の体育思想と、その史実について。
体育運動学	同	(Ⅰ) 体育の概論と、体操を中心とする体育運動の理論。
体育運動各論 (第一類)	同	(Ⅰ～Ⅳ) 学校体操(女子)の基礎的段階的技術の指導。
体育管理及施設	同	(Ⅳ) 体育管理の意義、機能。学校における体育施設の主なるものについて。
女子体育論	戸倉	(Ⅲ) 女性一般の体育から幼児体育にまで論及する。
体育運動学	同	(Ⅰ後) ダンスの史的考察とその本質論。
体育運動各論 (第二類)	同	(Ⅰ～Ⅳ) 学校ダンスの段階的指導。
体育学演習	林	(Ⅲ後) C. C. Cowell : Scientific Foundations of physical Education (Ⅳ) C. L. Brownwell : Foundations and Principles in Physical Education
西洋体育史	同	(Ⅱ) 西欧における体育思想とその史実。

体育史演習	林	外国文献を資料としての女子体育発達史の研究。
体育社会学	同	(Ⅲ後) 教育社会学よりアプローチして体育に於ける社会学的問題を提示する。
体育運動学	同	(Ⅱ前) 女子のスポーツと遊戯及びレクリエーションについて講述する。
体育運動各論	同	(Ⅰ～Ⅳ) テニス型、野球型に属する球技とシーズンスポーツの基礎的技術、及び指導法。
女子体育史	同	(Ⅳ後) 女子体育理念の史的考察。
体育運動各論 (第二類)	石山	(Ⅰ～Ⅳ) バスケットボール及びハンドボールの沿革、基礎的技術、ゲームの仕方、及び審判法。
体育心理学	同	(Ⅲ) 体育心理学の成立、課題、対象。
体育心理学実験	同	(Ⅲ) 基礎的実験を行い、実験の操作、実験過程の観察及び結果の処理について練習する。
体育心理学演習	同	(Ⅲ後) John, D. Lawther : Psychology of Coaching
体育社会学	同	(Ⅳ前) 体育を社会心理学の面から講述する。
体育評価	同	(Ⅲ前) 体育における測定・評価の意義、目的、対象及び手順。
体育運動学	同	(Ⅱ後) 女子のスポーツに関する基本的問題。
体育運動各論 (第二類)	平野	(Ⅰ、Ⅱ前) バレーボール競技の基本技能の習得を主とし、ゲーム並びに審判実習を行う。

体育運動各論 (第二類)	梅田	(I~IV) 競泳法及び審判法。
体育運動各論 (第二類)	武政	(III、IV) 陸上競技。特にフィールドの種目の理論と実技指導。
体育運動各論 (第二類)	三柳	(I、II前) 陸上競技法、特にトラック種目の理論と実技指導。
健康教育概論	渡辺	(III) 生理、衛生の一般的な理論、生命現象と環境。
衛生学	同	(II、III) 個人衛生及び環境衛生。
衛生学実験	同	(III) 環境衛生学に関する実験と測定の術式を実習する。
公衆衛生学 I	同	(III) 衛生統計、人口静態、人口動態を主として講述し、更に伝染病学に及ぶ。
公衆衛生学 II	同	(III) 主として学校保健について講述し、衛生行政、健康管理、社会保障の現状について。
公衆衛生学演習	同	(III) 公衆衛生学における調査、実験計画法、及び推計学の演習。
体育特殊講義	同	(IV) 条件反射及び女性の特性について。
女子身体論	小野	(II前) 女子の身体の特性を説き、体育と職業適性に及ぶ。
医学概論	同	(II後) 医学一般を講義し、実生活と体育における応用を講述する。
解剖学	同	(II前) 人体の系統解剖学、組織学を述べ更に運動解剖学に及ぶ。
生理学 I	同	(II) 一般生理、及び植物官能の生理。

生理学 II	小野	(II) 動物官能。
体育生理学	同	(II) Karpovich : Physiology of Muscular Activity に準拠。
生理学実験	同	(III) 生理学的実験測定法の術式を習得する。
発育論	同	(II) 胎生学及び生後の形態機能の発達過程について。
運動障害及び救急看護法	同	(II) 一般的講述と共に病理学を講じ、キャンプ、登山などを行なって実際指導を行う。
栄養学概論	同	(II) 一般栄養概論の講述。
声楽	藺田	(I) 基礎発声法研究。コールユーブンゲン、コールシュール・ダノーゼル等による基礎唱法(ソルフェージュ)発声法。
音楽理論	美田	(I) 音楽一年の音楽概論を前期のみ合併で行う。音楽理論の基礎。
ピアノ	守田・遠見	(I) 基礎奏法および伴奏法の研究。

教育学科 音楽教育学専攻

科目名	担当教官	講義内容
指揮法	藺田	(IV) 合唱指揮法、管絃楽法との関係、管絃楽指揮法、総譜演奏法。
連合唱	同	(II、III、IV) 女声合唱におけるアンサンブルの技巧研究。
合唱	同	(III、IV) 合唱指導法及び編曲法。

基礎唱法	藺田	(I) 基礎的発声法研究。
声乐(独唱)	同	(II、III、IV) 発声法及び各国語による発語法、古典、浪漫、近代、現代歌曲及びアリア唱法。
声乐(独唱)	小泉	(II、III、IV) リード及びアリア唱法。
合唱	同	(II) コールユーブンゲンによる音程及びリズムの基礎的研究。
ピアノ	守田・遠見	(I) 基礎奏法の研究。
〃	同	古典派音楽の研究。
〃	同	浪漫派音楽の研究。
〃	同	近代派音楽の研究。
対位法	柴田	(IV) バレストリーナ様式の対位法の概説と実習。
作曲学	同	(IV) 作曲様式の変遷について。(レコードを使用しつつ楽曲解剖の実習を含む。)
音楽学演習	同	(IV) 音楽学に関する外国文献の抄読。
音楽形式学	同	(III) 創作実習を課しつつ系統的に取扱う。
音楽概論	美田	(I) 楽典の詳説及び実習と音楽学序説。
和声法 I	同	(II、III) 古典派からロマン派に至る和声法の概説と実習(鍵盤上の実習を含む)。
和声法 II	同	(III) ロマン派以後近代に至る和声法の概説と実習(鍵盤上の実習を含む)。

指揮法	美田	(IV) 合唱指揮法、管絃楽法との関係、管絃楽指揮法、総譜弾奏法。
連合合唱	同	(II、III、IV) 女声合唱におけるアンサンブルの技巧研究。
基礎唱法	同	(I) 基礎的発声法の研究。
東洋音楽教育史 並に西洋音楽教育史	真篠	(I、II) 東洋および欧米における音楽教育の変遷と現状について。
音楽教育法	同	(III) 音楽教育の意義・目標・指導計画・指導法・評価・教材等について。
音楽心理学	同	(III、IV) 児童生徒の音楽性の発達について。
音楽教育学演習	同	(IV) James L. Mursell: Human Values in Music Education
西洋音楽史	皆川	(II、III、IV) 15世紀から17世紀にいたる西洋音楽史。
音楽史演習	同	(IV) 卒業論文指導を中心とする中世音楽史ゼミナール。
比較音楽学	小泉	比較音楽学の方法の概説と、その方法の適用による、ヨーロッパ音楽、東洋音楽及び日本音楽の問題点の概要を説明する。

## 文教育学部共通

科目名	担当教官	講義内容
△社会関係科目		



法 学	井 上	(IV) 古代から現代に至る法および政治思想を、歴史的社会的条件から攻究する。
経 済 学	安良城	(III) 封建制より資本主義への移行の歴史過程を基礎として経済学成立の条件を明かにし、合せて各国資本主義の構造的特質の究明に及びたい。
社会学特講 (現代社会学 の基本問題)	大 橋	(III、IV) 現代社会学において基本問題として重視されているテーマについての研究内容について講義し、あわせて現代社会学の性格そのものを理解させる。
社会調査法	同	(III、IV) 社会調査の方法および技術について演習形式と講義方式を併用理解させる。後期は実習の予定。
社会学演習	同	(III、IV) 原典をテキストとして、社会学理論を集中的に追求する。テキストは目下未定。
△学部共通科目		
ギリシア語	井 上	ギリシア語文法概説。
ラテン語	同	ラテン語文法読講ののち、ラテン原典の講読。

一理 学 部 一 基礎教育科目

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
基礎数学 I	立 花	(I) 一変数の微積分。計算を主にする。

基礎物理学 I	石 黒	(I又はII) 質点、剛体及び連続体の力学、振動、波動、音及び熱に関する基本的事項。微積分の初歩の知識を必要とする。
基礎化学 I	内 海	化学の系統を元素の性格に従って学ぶ。内海著「元素序説図表編」(共立出版)を教科書とする。前期総論、後期各論。
基礎生物学 I (動物学)	岡・団	(I後) 動物を中心にして、生物学の一般を紹介する。
同 (植物学)	太 田	(I前) 植物の細胞、遺伝を中心として、生物学の一般的紹介をする。
基礎数学 II	林 田	(II) Iについて多変数の微積分。解析幾何。代数。
基礎物理学 II	坂 上	(I又はII) 電磁気、光、原子、分子の物理学に関する基本的事項の解説。
基礎化学 II	立 花	(II前) 化学熱力学、テキスト：ムーア著「物理化学」(邦訳)上巻 ◎〔基礎化学 I、基礎物理学 I又はII〕
基礎化学 II	林	(II後) 有機化学の概論。
基礎生物学 II (動物学)	柳 田	(II後) 生物学の一断面。
基礎生物学 II (植物学)	大 槻	(II前) 植物の生理に関する基礎的知識を与える。

理学部 共通科目		
科目名	担当教官	講義内容
一般物理実験	小川	(Ⅱ前) 基礎的な実験法を練習体得せしめる。(医学歯学進学用)
基本化学実験	岡嶋	(Ⅱ前又は後) 化学の基本となる実験。主として外国語のテキストを用いる。(医学進学用をかねる)
生物学実験		(Ⅱ以上) 医学進学希望者は生物学科の実験の部分を参照。
気象学	佃	(Ⅲ、Ⅳ) 気象学に関する基礎的概念と気象現象の解説並に日本及び世界の気候、その他の特論。
天文学	宇津	(Ⅲ、Ⅳ) [前]地球の形と大きさ、内部構造、重力、地震、火山物理、地殻変動、地球熱学、地磁気等。[後]地震学および内部構造論をややくわしく行なう。

理学部 専門科目		
※のついた科目の履修は講義内容の欄に◎をつけて記載してある科目を修得しておくこと。		
数学科		
科目名	担当教官	講義内容
統計学	魚返	(Ⅰ前) 初等的な統計的解析についてのべる。
実数論・同演習	渋谷	(Ⅰ) 集合に関する諸概念と実数の理論及びその演習。
微積分学Ⅰ 同演習	松田	(Ⅰ) 一変数の微積分とその演習。
代数学Ⅰ・同演習	稲葉	(Ⅰ) 古典代数学の基礎的事項(整数、有理数、複素数の基本性質、多項式、方程式、行列式、行列)とその演習。
微積分学Ⅱ 同演習	亀谷	(Ⅱ) 多変数関数の微分積分学、と演習。
代数学Ⅱ・同演習	西	(Ⅱ) 抽象代数学初歩(群論を主とする)とその演習。
解析幾何学 同演習	林田	(Ⅱ) 解析幾何、線形代数とその演習。
位相空間論 同演習	亀谷	(Ⅱ) 位相空間論入門。必修でないが、3年で函数論(必修)をうけるのに必要であるから、数学科の学生はかならずうけること。
函数論	伊関	(Ⅲ、Ⅳ) 一変数の複素函数論の初歩。

函数論演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 同演習。
数理統計学	魚返	(Ⅲ、Ⅳ後) 数理統計学の初等的解説。
微分方程式論Ⅰ 同演習	渋谷	(Ⅲ、Ⅳ) 求積法、微分方程式論の初歩とその演習。
確率論	国沢	(Ⅲ) 1. 確率の導入、2. 確率分布、3. 平均値、4. 極限定理、5. 確立過程
微分幾何	立花俊	(Ⅰ) 微分法を使って曲線、曲面の性質をしらべる。
応用解析	宇野	(Ⅲ、Ⅳ) 解析学の応用を特に自動計算機による問題処理に適用されることを主眼として講義する。
代数幾何学	西	(Ⅲ、Ⅳ) 代数幾何学の初歩的部分。

物 理 学 科		※のついた科目の履修には講義内容の欄に◎をつけてある科目を修得しておくこと。
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
物理学演習Ⅰ	石 黒	(Ⅰ) 物理学の学習に必要な微積分の演習。
実験工作法	小 川	(Ⅰ後) 物理実験に必要な種々の工作や基礎的な実習器具について説明し、かつ実習する。
力学第一	石 黒	(Ⅱ) 質点、質点系、剛体及び解析力学。
物理実験第一	坂 上	(Ⅱ) 基礎量の測定法、基礎的機械の使用法を習熟体得せしめると共に、実験結果の取扱法及び基礎的な実験操作法の練習。

物理学演習Ⅲ	石 黒	(Ⅱ) 力学Ⅰに並行して、力学の諸問題を解く能力を育成する。
物理数学	大 野	(Ⅱ後) 複素回路積分、Laplace 変換、Fourier 級数等。
物理数学	橋 爪	(Ⅲ前) 常微分方程式及びその境界値問題、Green 函数固有函数による任意函数展開。
物理学演習Ⅱ	橋爪・大野	(Ⅱ前Ⅱ後) 物理数学の講義に関連した演習。
電磁気学及び 光学第一	中 村	(Ⅱ後Ⅲ前) 電磁現象を、いろいろな観点から眺めて、その物理的意味を把握させながら、Maxwell の方程式を導びく。ベクトルの基礎知識を前提とする。
物理実験学	坂 上	(Ⅱ後Ⅲ前) 実験結果整理法、基礎量の測定法、基礎的装置使用法、実験操作工作法の基礎。
物理学輪講	橋爪・大野	(Ⅲ)
物理実験第二	阿阪・中村	(Ⅲ) 物理実験Ⅰを終了せる学生に対し、さらに進んだ実験技術を修得せしめる。
原子物理学	小 川	(Ⅲ前) 黒体輻射。前期量子論。原子スペクトル。原子の衝突。
※力学第二	阿 阪	(Ⅲ前) 連続体の力学、特に流体力学 ◎[力学Ⅰ]
電子工学	小 川	(Ⅲ前) 電子管(主として真空管)及び、その回路の基礎。
相対性理論	下 瀬	(ⅢⅣ前) 特殊および、一般相対性理論の概要、電気力学。
電磁気学及び 光学第二	中 村	(Ⅲ後) Maxwell の方程式の解として振動する電磁場をとり扱う。真空中及び異方性質の中における伝播、回折、干渉およびその応用; 幾何光学。

熱学及び熱力学	大野	(Ⅲ後) 熱力学の諸原理に重点をおいて説明する。
※数理物理学	下瀬	(Ⅲ後) 偏微分方程式及び、その初期値問題、境界値問題、変分原理。 ◎[物理数学]
※流体力学特論	阿阪	(Ⅲ後) 最近の流体力学の発展、特に境界層、乱流及び高速気流について ◎[力学Ⅱ]
※量子力学	下瀬	(Ⅲ後Ⅳ前) 粒子と波動。不確定性原理。シュレーディンガー方程式。振動論。 ◎[力学Ⅰ][電磁気学及び光学Ⅰ]
量子力学演習	下瀬	(Ⅲ後Ⅳ前) 量子力学の講義と並行して問題を考究する。
※気体論統計力学	橋爪	(Ⅳ前) 古典及び量子統計力学につき講義する。◎[熱学及び熱力学]
原子核物理学	亀井	(Ⅳ前) 原子核物理学に於ける諸種の粒子検出法、原子核の構造及び諸性質放射能散乱問題を経て核反応論に至る。
原子核特論	亀井	(Ⅳ後) 前記を受け原子核物理学に於ける最近のトピック、核融合、天体内における元素の生成、宇宙線等を論ずる。
物性論	大野	(Ⅳ後) 気体論、統計力学を聴いてあることが望ましい。
地球物理学	宇津	(Ⅱ、Ⅳ) [前半]地球の形と大きさ、内部構造、重力、地震、火山物理、地殻変動、地熱学、地磁気等。 [後半]地震学および内部構造論をややくわしく行なう。
気象学	佃	(Ⅲ、Ⅳ) 気象学に関する基礎的概念と気象現象の解説並に日本及び世界の気候、その他特論。
特別研究	全教官	(Ⅵ) 各教官の研究室に別れて行う。

化 学 科		※のついた科目の履修は講義内容の欄に◎をつけてある科目を修得しておくこと。
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
基本化学実験	岡島	(Ⅰ) 化学の基本となる実験。外国語のテキストを用いる。
※物理化学Ⅰ	立花太	(Ⅱ) 化学平衡と反応速度論。テキスト：ムーア著「物理化学」(邦訳)上下。◎[基礎化学Ⅰ、基礎物理学Ⅰ又はⅡ]
※分析化学Ⅰ	中西	(Ⅱ前) 化学分析に必要な基礎事項。定性分析。◎[基礎化学Ⅰ]
※分析化学Ⅱ	中西	(Ⅱ後) 定量分析について。◎[分析化学Ⅰ]
※有機化学Ⅰ	林	(Ⅱ) 有機化学の基礎および鎖式化合物の概論。◎[基礎化学Ⅰ]
有機化学演習	林	(Ⅲ) Fieser 著 Text book of organic Chemistry (丸善版)を用いて行う。
無機分析化学実験	内海・中西	(Ⅱ) 無機物質を扱う定性分析、容量分析、比色分析、電気分析。
※無機化学Ⅰ	内海	(Ⅲ) 元素および無機化合物について原子理論、結合論および物性論を化学的に学ぶ。◎[基礎化学ⅠおよびⅡ]
※生物化学Ⅰ	阿武	(Ⅲ) 炭水化物、脂質、蛋白質および核酸の化学。◎[基礎化学Ⅱまたは有機化学Ⅰ]
※物理化学実験	立花・和田	(Ⅲ前) 物理化学の基本的実験技術の実習と計算の演習。テキスト：鮫島実三郎著「物理化学実験法」◎[物理化学Ⅰ、一般物理実験]

有機化学実験	林・塩田	(Ⅲ) 有機化学物の合成、反応、定性分析等に関する基礎的実験。
物理化学Ⅱ	和田	(Ⅲ) 量子力学、統計熱力学による分子論的な物理化学。
※有機化学Ⅱ	塩田	(Ⅲ) 環式化合物の概説。◎〔有機化学Ⅰ〕
量子化学	長倉	(Ⅱ、Ⅳ前) 量子力学の基礎とその化学への応用、特に化学結合への応用について。
※界面化学	立花太	(Ⅲ後) 界面現象の物理化学とその応用。◎〔物理化学Ⅰ又は基礎化学Ⅱ〕
放射化学	斎藤	(Ⅲ、Ⅵ後) 天然および人工放射性元素の生成とその分離。原子核分裂とその化学的諸問題。同位元素応用の原理。などについて講述する。
機器分析	中西	(Ⅲ後) 計測機器を用いる化学分析法。主として光学的方法と電気的方法について。
※生物化学Ⅱ	阿武	(Ⅲ後) ビタミン、ホルモンおよび酵素の概説。◎〔生物化学Ⅰ〕
天然色素化学	黒田	(Ⅲ) 先ず天然無機色素を整理したる後、有機色素一般の構造と性質とを検討、さらに動植物界に於ける色素につき分類し実験的にその特色を説述する。
応用化学	松崎	(Ⅲ後) 化学工業緒論、その特性、他の産業との関連、有機および無機化学工業概論。
生物化学実験	阿武	(Ⅳ前) 炭水化物、蛋白質、脂質および酵素についての基礎的実験。
生体反応論	吉川	(Ⅳ前) 生体内化学反応の研究手法、同位元素の利用。血液の化学。生体内中間代謝過程とその生理学的意義。
化学演習	化学科全教官	(Ⅳ) 外国語で発表された研究論文の解説と討論。

化学特別研究	同	(Ⅳ) 物理化学、無機分析化学、有機化学、生物化学の研究室において特定のテーマについて行う研究実験。
生物科学 動物学専攻		
科目名	担当教官	講義内容
動物系統学	久米	(Ⅰ) 動物の種類を(主として構造発生を基礎にして)系統的に比較する。
同 実 験	同	(Ⅱ) 動物の代表的な種類についての解剖実習。
動物細胞組織学	団	(Ⅲ前) 動物体を構成する細胞及び組織について、発生学的な見地から形態的に述べる。
同 実 験	同	(Ⅲ前) ここで実験の技術をあわせて習得する。
動物発生学 同 実 験	同	(Ⅲ前) 数種の動物について個体発生の経移を概説して、主な発生現象について比較考察する。同上実習。
実験形態学	碓井	(Ⅳ前) 動物における形態形式の機構について説明。調節卵とモザイク卵、形成体と誘導、極性の問題などについて述べる。
同 上	木下	(Ⅱ後) 受精、分割、誘導などの機構についてその因果関係を明らかにする実験発生学を主内容として講義を進める。
動物生理学	柳田	(Ⅲ) 一般生理学的な基本問題を顧慮しつつ、下等動物を中心に比較生理を論述する。

同 実 験	同	(Ⅲ) 毎週グループに一題ずつ簡単な実験を課し、生理学的な基本手技の心得を養う。
動物生理化学	荒 木	(Ⅲ後) 生体を化学反応の場としてみた生理学的一面を、主として酵素及び酵素系につき考察する。
同 実 験	同	(Ⅳ前) 生体を構成するいくつかの成分と酵素につき簡単な定性と定量の実験。(臨海実験所)
動物学臨海実験	団・木下	(Ⅱ後、Ⅲ前) 動物の種類、形態、発生などを観察実験。動物系統学の知識必要。
生物学特別研究 (動物学)	各教官	(Ⅳ) 学生各自が動物学に関する特定の主題を選び専門的研究の实地を体得。
動物生理学 臨海実習	柳 田	(Ⅲ前) 三崎臨海実験所に三日間滞在、生活材料を用いて小さな観察。
生 物 学 セ ミ ナ ー (動物学)	団 柳 田 荒 木	(Ⅲ、Ⅳ) 教官、学生が合して、各自動物学に関する選ばれた論文を紹介し、あとでそれについて全員で論議をおこなう。
動物生態学 生態学野外実習	堀 越 同	(Ⅲ後) 環境とは何か、個体・個体群・群聚の生態学。生態系の構造と機能。
動物心理学	丘	(Ⅲ前) 動物心理学の目的、対象、方法につき述べ、下等動物、高等動物の数群につき、著名な研究成果を紹介する。
動物学特別講義 ("癌の問題")	馬 場	(Ⅲ、Ⅳ前) 人癌及び癌研究の歴史から、現代の医学、生物学が如何にしてこの未知なる病に戦をいどみ如何なる成果を挙げたか、又将来の方向等について概説。

生 物 学 科 植物学専攻		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
植物外部形態学	津 山	(Ⅰ) 茎、葉、根およびこれらから導かれた植物の諸機関の構造、配列、分化を比較検討する。
同 実 験	同	(Ⅰ) 同上実験
植物組織学Ⅰ 同 実 験	井 上	(Ⅱ前) 管束植物の栄養器官の組織について、その種類と、発生、排列、系統などについて述べる。
植物組織学Ⅱ 同 実 験	津 山	(Ⅱ後) 植物の発生、組織分化について述べる。
植物細胞学 同 実 験	太 田	(Ⅲ前) 植物体の構成単位である細胞の構造と機能の関連について。
植物生化学	大 槻	(Ⅲ前) 植物細胞の化学組成、酵素、炭水化物とその生体合成、蛋白質とその生体合成等。
同 実 験	塚 本	(Ⅲ前) 同上実験。
植物生理学Ⅰ	大 槻	(Ⅱ前) 植物の形態及び位置変換の生理即ち滲透圧現象、生長、運動。
同 実 験	同	(Ⅱ前) 前同上の実験。
植物生理学Ⅰ 同 実 験	塚 本	(Ⅲ前) 講義或いは適当な教科書を使う。内容は主として酵素化学について。

植物生態学	門 司	(Ⅲ) 植物群落にみられる構造、地理的分布、層、遷移などの諸現象を主として物質生産によって明らかにする。
植物臨海実習	津 山	(Ⅲ後) 主として海藻類を材料として、分類、外部形態、組織細胞の実習。
植物分類学	同	(Ⅱ後) 単細胞から高等植物に至る各植物群の系統的類縁を明らかにし、進化のあとをたどる。
微生物学 同 実 験	大 槻	(Ⅱ後) 微生物学一般について講義する。培養、種類の鑑別、代謝生理。
植物生理学Ⅱ 同 実 験	塚 本	(Ⅲ後) 植物生理学Ⅰ及び同実験の続きを行う。
植物野外実習	同	(Ⅰ～Ⅳ) 日帰り又は、2～3泊の旅をなしつつ、分類、分布、外部形態等の実習。

生物学科共通(遺伝学)		
科目名	担当教官	講 義 内 容
遺伝学総論	新 関	(Ⅱ後、Ⅲ前) 遺伝の現象と、理論の基礎的なものの説明。
同 実 験	同	(Ⅲ) 同上実験で染色体観察法、交配技術など。
遺伝学各論 同 実 験	岡	(Ⅳ前) 遺伝に関する諸問題の基礎的なものと尖端的なもの。
細胞遺伝学		(Ⅲ後)
人類遺伝学	大 倉	(Ⅲ後) 人類における遺伝の理論とその応用を実例について解説する。
優 生 学	岡	(Ⅲ後) 人間における遺伝とその関連における諸問題、特に民族衛生学。
育種学(総論)	同	(Ⅲ前) 品種改良に関する諸問題。
同 (植物)	浅 山	(Ⅲ前) } 花卉、蔬菜、果樹の栽培について実際と理論を学び、その利
園 芸 学	同	(Ⅰ～Ⅳ前) } 用を考究する。
放射線生物学	仲 尾	(Ⅲ後)

—家政学部—

児童学科

科目名	担当教官	講義内容
児童学演習	松村	(Ⅰ) 児童学の動向・児童学の対象と領域の一般的な知識が習得されるように、本邦文献を中心として、演習形式で研究的にすすめる。
精神検査	同	(Ⅲ前) 精神検査(プロジェクトブ・テスト)を診断「即」治療の立場からとり扱う。
児童生活指導	同	(Ⅲ後) 個人および集団指導の理論と技法。
臨床心理学	同	(Ⅳ前) 適応と変革の理論と技法(1)臨床心理学の動向、Counselingなど。
精神衛生	同	(Ⅳ後) 適応と変革の理論と技法(2)精神衛生の動向、Psychodramaなど。
児童心理学	浅見	(Ⅱ) 児童心理学全般にわたって基礎的な諸事実、原理を概観する。
児童心理学実験演習	同	(Ⅲ) 児童心理学に関する実験研究のために必要な基礎的、典型的実験方法の実習並びに簡単な統計的処理法の訓練を行う。
児童心理学演習	同	(Ⅲ) 児童心理学に関する外国文献の講読(ドイツ語文献を主とし、その他欧米の諸文献も取扱う。)

青年心理学演習	浅見	(Ⅳ) 児童後期および青年期の精神発達に関する文献の総括。
児童生活指導	同	(Ⅱ)(Ⅳ) 児童生活の諸問題を概説し、生活指導上の原理、技術を検討する。
児童福祉	辻村	(Ⅳ) 近世以降の日本の児童の社会的処遇の歴史を顧み、それが現行の児童福祉の保障へ発展して来たことを研究する。
幼稚園実習	菊池	(Ⅲ) 幼稚園教育の目標・幼稚園教育の内容とその指導・幼児の成長発達。幼稚園のカリキュラム・教育内容各論の中の絵画製作の指導・簡易玩具の製作
保育技術	同	(Ⅲ) 教育内容各論の中の絵画製作の指導、簡易玩具の製作。
小児医学第一(発育・生理論)	平井	(Ⅰ後、Ⅱ前) 胎児より青年に到る各期の発育、生理の特徴及び系統的な発育について考究し、児童身体の基本的な理解に資する。
小児医学第二(養護理論及び学校保健)	同	(Ⅱ後) 胎児より青年に到る各期の養護及びその理論、幼稚園・学校における保健管理・精神衛生の方法について考究し、その応用を検討する。
小児医学第三(精神衛生及び精神病理学)	同	(Ⅲ) 脳神経系の発達及び病的状態、精神身体症状の発生・神経症・精神病に関する理論に付き講述し、その予防・治療の対策を論ずる。
小児医学実習第一	同	(Ⅱ) 健康児の身体測定、臨床検査(尿、血液、神経)を行い、乳児院・病院などにおいて実習する他、各種施設の見学を行う。
小児医学実習第二	同	(Ⅲ) 小児の精神障害について、研究課題を持ち実験・実習を行う他、各種の施設の見学を行う。
児童文化	阪本	(Ⅲ) 児童文化の本質。児童文学の変遷史及び各種の児童文化財について



小児医学第四 (病理学)	斎藤	考察する。(対象・教育学科及び児童学科)
小児栄養学	武藤	(Ⅲ、Ⅳ後) 小児のかかりやすい病気について、主として予防医学的見地より重点的に一単位講義する予定。
個人及び 公衆衛生		(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ) 胎児、乳児、幼児の栄養に関する理論と実際。
青年心理学		(Ⅱ又はⅢ) 母子衛生を中心に、妊娠、分娩、産褥の生理及び病理について講述する他施設の見学を行う。
精神検査演習		(Ⅱ) 青年期における心理的・社会的成熟現象を研究する。
家庭教育第二		(Ⅲ) 知能検査・性格検査その他の検査の概説を演習。
幼稚園 ナースリー第一	津守	(Ⅲ) 家庭における世代・きょうだい・結婚の諸問題。
幼稚園 ナースリー第二	津守・松村 浅見	(Ⅱ前) 乳幼児期の心理的発達と、幼児教育の原理について講義する。
児童学概論	津守	(Ⅲ後) 幼児教育の諸分野について、高度の研究をすすめるための研究法、技術等について考究する。本年度は津守担当。
家庭教育第一	同	(Ⅰ後) 児童学の分野、対象・方法等について概観する。
家族関係演習	同	(Ⅱ後) 家族の人間関係について、児童の心理的発達にそくして講義する。
	同	(Ⅲ、Ⅳ) 家族関係についての洋書講読および文献の総括。

食 物 学 科		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
栄養化学	稲垣	(Ⅲ) 栄養素の化学、生理的意義、新陳代謝、および栄養要求量等について述べる。
栄養化学実験	同	(Ⅲ) 主として、天然物より酵素の分離および酵素作用の測定、微生物取扱法等について実験する。
ビタミン学	同	(Ⅲ) 各種ビタミン発見の歴史、構造、性状、生理作用、所在等について述べる。
ビタミン学実験	同	(Ⅲ) 天然物よりビタミンの抽出、ビタミンの化学的定量法、動物実験等について実験を行う。
食物学概論	同	(Ⅰ) 栄養及び食品学の概要について述べる。
栄養化学輪講	稲垣 福場	(Ⅳ) 栄養素の化学をテキストを用いて行う。
食物学演習	食 物 学 科 全教官	(Ⅳ) 外国語で発表された近着研究論文の解説と討論。
酵素化学	福場	(Ⅲ) 食物の消化、栄養素の生体代謝および食品の加工貯蔵等に関する酵素について概説する。
食品微生物学	同	(Ⅲ) 微生物の分類、性状、取扱法等について述べる。

食物衛生学	福場	(Ⅲ) 衛生微生物、食中毒、腐敗、食品鑑別法等食物衛生に関する一般的知識について概説する。
栄養生理	小池	(Ⅲ) 栄養学を理解するのに必要な内臓諸臓器学、ホルモン等の解剖、生理。成長、労働、老化現象と栄養。エネルギー代謝その他物質代謝との関係。
食品化学	木原	(Ⅰ) 食品の成分に関する基礎化学。
農産食品化学	同	(Ⅰ) 農産食品の処理、加工、貯蔵に関する化学。
食品化学実験	同	(Ⅱ) 食品の一般分析、水の分析。
食品化学論講	木原 山西	(Ⅳ) 食品化学に関する書物の輪読。
水産食品化学	山西	(Ⅱ) 水産食品の成分及び調理、加工、貯蔵中の変化。
食品化学(各論)	同	(Ⅱ) 食品の色、香、味の成分及び有毒成分に関する化学と嗜好食品。
食品化学実験	同	(Ⅲ) 食品の主成分の分離、定量及び簡単な有機合成。
天然物取扱法	辻村	(Ⅳ) 食品中の天然物の取扱方法に資するため、主として植物性の物質・葉、果実、菌藻類等の一般成分の研究方法を講ずる。
醸造食品加工学	松本	(Ⅲ) 一般醗酵食品加工に関する微生物の概略と食品殺菌に関する事項。更に各食品製造過程に就て説明するものである。
畜産食品学	藤巻	(Ⅲ) 乳、肉、卵について主として食品化学的に解説する。とくに食品の品質を向上させる為にとられている最近の化学的進歩に重点をおいている。
献立論及び実習	松元	(Ⅲ、Ⅳ) 栄養学、食品学を基礎として献立への過程を述べ、献立作製の演習を行う。

調理実験	松元	(Ⅱ、Ⅲ) 調理のための食品学について述べ、調理に関する基礎的実験を行う。
調理学Ⅱ	同	(Ⅲ) 主として中華料理の一般講義実習をする。
食生活史	同	(Ⅲ) 日本の食生活の変革を、食品・調理・食事様式等の立場から述べる。
食糧政策	桜井	(Ⅲ) 我国の食糧の供給及び消費について食品学の立場より述べる。
調理学Ⅲ	由井	(Ⅲ、Ⅳ) 日本料理一般(儀式料理も含む)及び病人食餌について講義実習する。
調理学論講	松元 吉松	(Ⅳ) 調理実験に関係ある外国文献の輪講を行う。
調理学Ⅰ	吉松	(Ⅱ) 主として基礎的調理の一般を講義実習する。
調理学Ⅱ	同	(Ⅲ、Ⅳ) 主として欧風料理の一般を講義実習する。
調理学	伊東	(Ⅲ、Ⅳ) 児童学科及び被服学科学生の為手法別、食品別による基本調理、調理実験をする。
被服学科(被服科学コース)		
科目名	担当教官	講義内容
染色化学第一	矢部	(Ⅱ前) 染料の部属別特性、染色堅牢度、染色機構の概要、各種繊維の染色性等を総論的な立場から概説する。

染色化学第二	矢部	(Ⅱ後) 直接染料、硫化染料、建染染料、ナフトール染料、酸性染料、分散染料、塩基性染料、等の染色性、染色法、適用繊維との関係を概説する。
染色科学第三	同	(Ⅲ) 測色の原理。染料の色と化学構造。染着平衡論(親和力、吸着等温式)染色速度論(定常及非定常拡散。均染性)染着状態(堅牢度との関係)
染色化学実験第一	同	(Ⅱ後) 染着量定量法、染料の鑑別、直接染料、酸性染料の染色性実験、堅牢度試験法。建染め染料によるろうけつ染め等(本学部編「家政学実験講座V巻」)
染色化学実験第二	同	(Ⅲ) 基礎実験法(染着平衡の測定。吸着等温式の導出。セロファン巻層法による染色速度の測定。)応用実験(分散染料の染色法)
被服材料学第一	松川	(Ⅱ) 繊維の分類、原料、性質、糸、編物、織物等の繊維製品、プラスチック、ゴム、皮革など被服材料全般に関する基礎知識(松川著「被服科学」)
被服材料学第二	同	(Ⅲ) 繊維構造論、人造繊維製造法、繊維の改質、被材に関連のある高分子化学序論、プラスチック材料各論、新しい話題などで「第一」を補う。
被服材料学実験第一	松川(林)	(Ⅱ) 基礎実験。繊維の鑑別法。混合繊維の分離定量。各種繊維の取り扱いに関する実験。本学部編「家政学実験講座I及びIV巻」。
被服材料学実験第二	松川	(Ⅲ) 繊維の物理化学的諸性質の測定、高分子化合物の基礎性質、簡単な人造繊維の製造、繊維の改質、織物の加工など。(同上IV巻)。
被服科学演習第一	同	(Ⅲ、IV) 繊維の構造、製法、性質、用途、他の高分子化合物との関連などを外国語テキストによって学ぶ。(Ⅲ)B. Jirgensons; Organic Colloids, (IV)R. Hil 編、Fibres from Synthetic Polymers.)
被服科学演習第二	矢部	(Ⅲ、IV) 染色現象の物理化学的な見方を、テキストにより演習(T. Vickerstaff: The Physical Chemistry of Dyeing, 2nd Ed.)

被服整理学	矢部 松川	(Ⅲ) 洗浄用水、界面活性剤、洗浄理論、実際の洗浄条件、洗浄力試験法などの基礎的事項。被服、繊維の損傷、劣化、防水、防縮、防皺加工など。
服被整理学実験	矢部 松川(林)	(IV前) 水の硬度測定。洗剤の溶液特性。洗浄力試験。漂白・羊毛の縮絨、糊付、樹脂加工に関する実験等(本学部編「家政学実験講座V巻」)
被服科学輪講	(林) 矢部 松川	(IV) 近着外国文献(英米独などの学術雑誌、専門書)の主としてオリジナルな報文につき、輪読および討論。
被服機構学	真島	(Ⅱ) センイの力学的特性、衣服の磨耗機構、防寒、防暑服の物理的考察。布地の糸密度と織むら。布地の光沢度。布地の通気性と通水性。
被服衛生学	田多井	(Ⅲ) 環境と人体機構を中心に、その適応における被服の役割について述べる。

## 被服学科(被服構成コース)

科目名	担当教官	講義内容
日本服飾史概説	谷田	(Ⅰ) 上代より近世に至る服飾の概観、特に服飾における美意識の把握を問題として。
西洋服飾史概説	同	(Ⅰ) 上代より近世に至る服飾史の概説、ヨーロッパ服装の成立要素の解明を中心に。
東洋服飾史概説	同	(Ⅱ) 中国服飾史、特に古代中世服飾の日本への影響関係。

染織工芸概論	谷田	(Ⅱ) 生活造形の一分野として見た染織工芸、意匠論、および染織工芸史の概説。
服飾美学概論	同	(Ⅲ) 服飾類型、美的範疇、流行の各論。
服飾美学演習	同	(Ⅳ) 講読および資料検討。
服飾史特講(A)	田実	(Ⅲ、Ⅵ) わが国の近世における小袖に関して、その変遷を形態、模様、染織技術、地質の各方面から順次考察していく。
服飾史特講(B)	丹野	(Ⅲ、Ⅳ後) 衣服の基本形態を、古代民族の生活様式との関聯において分類し、爾後の服飾様式の変遷を、社会史的観点から考察する。
色彩学概論	石山	(Ⅱ) 色彩構成と基礎理論。
服飾意匠学概論	同	(Ⅲ) Costume design の基礎理論と実技。
服飾意匠学特論	同	(Ⅳ) Fashion 画に現れた西洋衣服流行史。
被服構成学並びに実習第一	柳沢	(Ⅰ) 被服構成に関する基礎的技術。ブラウス・スカート実習。
同上	同	(Ⅱ) 被服構成に関する基礎的事項。ワンピースドレス・コート・ズボン実習。
同上第二	同	(Ⅲ前) 人体形態論。衣服の立体構成に関する各種実験。
同上第一	柳沢	(Ⅲ後) スーツ実習。
同上第二	成田	(Ⅳ) 被服構成に関連のある諸問題。アフタヌーンドレス実習。
同上第一	石田	(Ⅲ前) 和服製作技術に関する基礎的事項。単長着実習。

同上第三	石田	(Ⅲ後) 帯、羽織実習。
同上第三	同	(Ⅳ) 和服構成に関する基礎理論並びに各種実験。袷長着・綿入れもの実習。
被服構成学並びに実習	石毛	(児童・食物Ⅱ) 被服構成に関する基礎的事項。ブラウス・ワンピースドレス実習。和服裁縫の基礎技術。
同上	同	(児童Ⅱ) スカート・ズボン実習。

## 家政学部共通

科目名	担当教官	講義内容
家族経済学概論	伊藤	(Ⅰ後) 家族経済学の一般的・基礎知識と理解。
家族経済学 その1 その2	同	(Ⅱ) 家族経済学総論、収入論、支出論、家事会計論、経済準備論。
家計簿記論 その1 その2	同	(Ⅲ) 家計簿記について、講義と演習と研究。
児童学概論	(松村) 井津守	(Ⅰ) 小児保健の概要及び育児の要点について。児童学の分野・対象・方法等について概観する。
食物学概論	稲垣	(Ⅰ) 栄養及食品学の概要について述べる。

被服学概論	矢部他	(Ⅰ) 被服材料、染色、整理、服飾美学、意匠、構成の概要。
家庭管理学概論	稲葉	(Ⅱ) 家庭生活における労力と時間の使い方に関する一般論。
家庭管理学特論	同	(Ⅲ) 家庭経営上、家庭生活の改善点を調査検討する。

教職教育科目

科目名	担当教官	講義内容
教育心理 (青年心理を含む)	内田	(Ⅱ) 教育心理学の本質と領域。学習心理の諸問題。発達過程と青年期の心理。
教育原理 (教育指導を含む)	周郷	(Ⅱ、Ⅲ) 教育の見方、考え方の発展、現代におけるその制度、方法および原理——比較学的研究。
教育原理	吉田	(Ⅱ、Ⅲ) 教育の目的、内容、方法、生徒指導について概観する。教職必修で、生徒指導は後期にきりはなして行う。同一並行講義(周郷教授担当)あり。
教育指導	同	(Ⅱ、Ⅲ) 生徒の個別指導、集団指導、特別教育活動等についての目的、内容方法を概観する。
教科教育法		高・中教員希望者のため、第三年次の前期又は後期において、次の各教科毎に講義2単位分を行い、第四年次のはじめ「観察参加」として実習1単位分を行い、計3単位分実施。
(社会)	尾鍋	歴史教育を中心として、社会科教育の問題点をのべる。テキストは尾鍋「国際的視野から見た歴史教育」(近刊)

(社会)	渡辺光	地理教育の基盤として必須な事項の説明を主とし、併せて文部省別定指導要領の趣旨の説明を行う。
(国語)	斎藤	テキスト「国語科教育法概説」を使用して中学校、高等学校の指導理論と方法を取り扱う。
(中国語)	頼	
(英語)	宮田	外国語教授法の理論。わが国の中学校高等学校における英語学習指導のあり方。
(体育)	森	体育(保健体育)の教育方法についての一般的理論。学習指導要領の研究。
(保健)	渡辺俊	保健に必要な基礎的科目をたてにし、これを、中・高校生の知能と、教室環境にてらし、要点の軽重に応じた指導法を講ずる。
(音楽)	真篠	小・中学校学習指導要領の解説とその展開。
(数学)	稲葉	高等学校の数学教育法について、初等幾何を例にとり説明する。
(理科)	永田	
(家庭)	伊藤	家庭科教育の変遷・指導目標、家庭科における教育課程の編成学習指導の計画、単元の設定および展開、学習指導の方法など。
教育実習		高校・中学教員のための実習(2単位分)と小学校幼稚園教員のための実習(4単位分)とがある。高・中の場合は7月2回の子定、附属各校のほか学外協力学校をも実習校とする。

小学校 教材 研究	月曜 前期 " 後期 (7. 8時)	加藤(算数・理科) 大橋(国語) 林(図工) 富平(家庭科) 福田(音楽) 宮地(社会科) 古江(体育)	小学校教員希望者のための科目。小学校の全教科8科について、おのおのの教科の目標および指導の内容(教材・資料)と方法を研究する。
保育内容の研究			幼稚園教員希望者のための科目。児童学科における関係諸科目および幼稚園教員養成課題における関係諸科目と同一履修。
教育哲学	周郷		(後) 現代の教育哲学——東と西における「人生論」(Philosophy of life) 学の諸類型の発展。日本の教育哲学の吟味。
西洋教育史	関野		(前) 社会的見地により近代教育思想の推移と制度の展開。(今日の教育課題の歴史的考察を中心として)
教育行政要論	同		戦後の教育改革の推移と特質とを歴史的行政的視点から考察。とくに教育基本法、学校教育法その他教育諸法の意義と今日における教育課題。(前期と後期の2回に分ける)
視聴覚教育	坂元		(前) 視聴覚的な手段を教育の目的のために利用することについて、その理論ならびに実際について、広く研究する。
教育社会学	河野		教育社会学研究の意義、発展、領域、方法について概説し、若干の基本的諸問題を考察する。

## 各科補導委員

昭和35年度

学年 科別	4年(32年度)	3年(33年度)	2年(34年度)	1年(35年度)
哲学科	藤田先生	藤田先生	勝部先生	石塚先生
史学科	赤木 "	市古 "	和田 "	中村一良 "
地理科	渡辺 "	式 "	浅海 "	松井 "
国文科	江湖山 "	関根 "	次田 "	市川 "
中文科	網 "	網 "	網 "	網 "
英文科	野島 "	滝沢 "	西崎 "	伊吹 "
教育科	周郷 "	吉田 "	宮田 "	波多野 "
体育科	戸倉 "	小野 "	林 "	石山 "
音楽科	美田 "	蘭田 "	守田 "	遠見 "
数学科	亀谷 "	稲葉 "	林田 "	松田 "
物理科	石黒 "	大野 "	坂上 "	下瀬 "

化 学 科	内 海 〃	和 田 〃	立 花 〃	岡 嶋 〃
動 物 科	岡 〃	荒 木 〃	団 〃	柳 田 〃
植 物 科	大 槻 〃	塚 本 〃	新 関 〃	太 田 〃
児 童 科	津 守 〃	平 井 〃	松 村 〃	浅 見 〃
食 物 科	福 場 〃	木 原 〃	吉 松 〃	山 西 〃
被 服 科	柳 沢 〃	矢 部 〃	松 川 〃	石 山 〃

## 昭和 35 年度 行事 予定

(学生関係)

4	11	月	入 学 式	
〃	12(火)13(水)16(土)		入 学 指 導	
〃	13	水	全 学 授 業 開 始	
〃	下	旬	就 職 指 導 開 始	4 年 生 の み
5	上	旬	定 期 健 康 診 断	2 年 生 以 上
〃	中	旬	遠 足	
〃	中旬~6月		球 技 大 会	
6	1日(水)~17日(金)		高 校 中 学 観 察 参 加 (未 定)	4 年 生 の み
	6月18日(土)~7月16日(土)		第 一 期 及 び 第 二 期 教 育 実 習 (未 定)	〃
	7月3日(日)~9月11日(日)		夏 期 休 業	
10	3日(月)~8日(土)		前 期 試 験	
〃	10日(月)~20日(木)		前 期 休 業	
〃	20	木	後 期 授 業 時 間 割 発 表	

10	21	金	後期授業開始
10月~11月			体育祭・文化祭
11	29	火	開学記念日
12	上旬		東京地区国公立大学音楽会
12月25日(日)~1月7日(土)			冬期休業
2	6日(月)~11日(土)		4年生試験(専攻科等も含む)
〃	20日(月)~25日(土)		3年生以下試験
3	中旬		卒業式

授業時間割 (一般教育、体育、外国語、基礎教育、教職科目)

	1 (8.30-9.20)	2 (9.20-10.10)	3 (10.20-11.10)	4 (11.10-12.00)	5 (13.10-14.00)	6 (14.00-14.50)	7 (15.00-15.50)	8 (15.50-16.40)
月	人 心理学 松村 社 (地理学 渡辺) 自 [家政学 谷田外] (基礎数学Ⅰ 立花) 基礎化学Ⅱ(物理化学立花) [有機化学 林] 教(教育原理 周郷) 体 実技Ⅲ、Ⅳ 教[教育指導 周郷]	人 文学Ⅰ 堤 社 歴史学(市古)[赤木] 自 化学(A) 岡嶋 基礎(植物学 太田) 生物学Ⅰ[(動物学 岡、団)]	社 経済学 安藤 自(統計学 魚返) 独Ⅰ(家) 吉田 教(視聴覚教育 坂元)	体 実技Ⅰ 体 実技Ⅰ (国中音) 体 実技Ⅰ (英 教)	英Ⅰ(文A)(ルイス)[石渡] 独Ⅰ(文B)(石渡)[ルイス] 独Ⅰ(理) 志田 独Ⅰ(家) 横溝 英Ⅱ(文A) 滝沢 独Ⅱ(理) 西崎 体 実技Ⅲ、Ⅳ	英Ⅰ(理) 西崎 独Ⅰ(家) 滝沢 独Ⅱ(文) 横溝 独Ⅱ(理家) 志田	独Ⅰ(文) 横溝	体 実技Ⅰ(家) 体 実技Ⅰ 数物 体 講義Ⅰ(文)
火	人 哲学 柴田	人 社会心理学 波多野 文学Ⅱ(野島)[滝沢] [倫理学 勝部] 社[法学Ⅰ 井上] [政治学 井上]	人 (美学 三輪) 自 [美術史 三輪] 自 (数学 松田) 自Ⅰ(全) 小泉					
水	基礎物理学Ⅰ 石黒 独 高級 志田 教(教育原理 吉田) 体 実技Ⅲ、Ⅳ 教[教育指導 吉田]	自 物理学 小野 地学{(天文気象 佃) [天文気象 佃]} 自[数学 松田]					体 実技Ⅲ、Ⅳ	





